

DBセミナーにおける質疑応答

質問	回答
1. ベトナム (2012年1月11日)	
1) DBの費用は、円借款でカバーされると考えてよいか。	DBは、コンストラクション・マネジメントのツールであると位置づけられ、その費用は円借款のエリジブルコストである。
2) DBのメンバーには高い中立性が求められるが、国籍はどのように考えればよいか。	発注者とコントラクターが同国人を推薦することは仲裁などにおいてもよく見られるが、3人目の議長については第三人人とすることが強く望まれる。
3) DBのメンバーの指名機関はだれが良いのか。	FIDICが代表例である。JICAの標準入札書類では、デフォルトの例示はしていない。
4) DBの導入については、法的な整備が必要であると考えます。	紛争はDBが裁定するという合意は、契約自由の原則によるものであり、法的な枠組みとは対立するものではないと考える。
2. スリランカ (2012年1月17日)	
1) DBの導入の意義は理解できるが、DBの導入を契約で定めたとしても、契約で定めたことを守らないという問題が起こり得る。DBの指名が遅れるという問題も起こっている。	契約を遵守しないということは契約違反である。DBの指名の遅れも契約違反である可能性がある。これは、法的な問題というよりも、インテグリティやモラルの問題といえるのではないかと。
2) DBの裁定は最終ではないという問題がある。また、MDB Clause 20.7 “Failure to Comply with DB’s Decision”に発展した事例もある。	DBの裁定は最終ではないが、その後の和解や仲裁で覆されない限り契約当事者に対して拘束力を持つ。DBの裁定には従わず、仲裁にも行かないというのは困ったことであり、その不履行を仲裁に持ち込むしか手はない。DB裁定の実行性を強化するために、FIDIC Gold Bookでは、クレームに対する支払いに対して受け取り側が裁定が覆された場合に返金することを担保するための銀行保証を入れることを規定している。
3) DBの導入に関して法的な枠組みは必要ではないのか？日本の場合はどうか？	DBの裁定は契約の枠組みの中の合意であり、法的な枠組みとは対立しないと考える。ADRに関わる法律があれば、DBのシステムをサポートすることになるが、必ずしも必要ではない。日本においてもDB特有の法律は存在しない。
4) DBのヒアリングにおける the Engineer の役割は何であるのか？	the Engineer は、現場の状況についての説明者としての役割を果たすことが往々にしてある。

質問	回答
3. フィリピン (2012年2月9日)	
1)	<p>DB メンバーは現地の法律をよく知っている必要はあるか？</p> <p>DB に付託される紛争の大部分は、契約の解釈と技術的な問題であり、現地の法律や規則に関連することは稀である。但し、瑕疵責任などについては現地の法律が関わりを有することはあり得る。</p>
2)	<p>DB の裁定で紛争が解決されず仲裁に持ち込まれる可能性があるならば、DB の費用は無駄であるとみなされないか？</p> <p>FIDIC 契約書では、契約当事者が DB の裁定に対して 28 日以内に不服を申し立て、紛争を仲裁に持ち込むことができる。但し、プレゼンテーションでの説明の通り、米国の統計では DB の裁定後に仲裁まで発展する確率は 2% に過ぎない。DB の裁定は仲裁や裁判においても参考とされるので、そのことが仲裁への発展を抑止していると考えられる。</p> <p>多くの人が、DB の裁定と同じ判断が仲裁においてなされると考えているものと思われる。</p> <p>DB の普及に伴い、仲裁機関である ICC の仲裁件数は大きく減少している。ICC も DB プロセスをプロモートしており、ICC 独自の DB 規則を定めている。</p>
3)	<p>DB の導入と入札における競争環境とは関連があるか？</p> <p>DB が導入されていないプロジェクトには、入札を躊躇する欧米のコントラクターがいると聞いている。米国カリフォルニア州の調査では、DB 有り と DB 無し の入札金額を比較すると DB 有りのほうが入札金額が低いという結果がでていと聞いている。特に大型案件において、コントラクターにとってキャッシュフローの改善が期待されるのではないかとと思われる。</p>
4)	<p>フィリピンではアジュディケーター・ナショナルリストを作る計画はあるのであろうか？その場合、FIDIC のガイドラインに準ずることになるのであろうか？</p> <p>CECOPHIL では、ナショナルリスト立ち上げのプロセスを今年より開始する計画である。これまで FIDIC Module 1 及び 2 のセミナーを実施したが、できれば Module 3 及び 3A を今年に実施したい。審査プロセスは FIDIC ガイドラインに従うべきと考える。(CECOPHIL)</p> <p>AJCE の審査は FIDIC のガイドラインに基本的にしたがっている。他国のナショナルリストの立ち上げのために、AJCE の経験を広く共有したいと考える。(調査団)</p>

質問		回答
5)	アジュディケーターの審査には、政府機関係の職員の参加も可能であるか。	門戸はできるだけ広げるべきと考えている。但し、退職後でなければアジュディケーターとして行動することは難しいのではないかと。(CECOPHIL)
6)	DBはDBO (Design Build Operate)形式のプロジェクトにも適用可能であるか？また、アジュディケーターに求められる知識は異なるのであろうか？	FIDIC では Red Book (Design Bid Build)、Yellow Book (Design Build)、Silver Book (EPC/Turnkey)、Gold Book (Design Build Operate)のすべての契約条件書に DB を導入している。アジュディケーターに求められる資質は基本的に変わらない。尚、Yellow Book と Silver Book は現行バージョンでは、ad-hoc DB が採用されているが、次期改訂版では standing DB に変更される見込みである。
4. インドネシア (2012年2月14日)		
1)	DB の導入に対する他国の反応はどうであるか？	これまでベトナム、スリランカ、フィリピンで DB セミナーを行い、DB の導入に関するアンケート調査を実施した。国によって異なるが、50%以上の参加者が DB の導入に賛成である。否定的な意見についてもその殆どが条件が整えば賛成という立場である。否定的な意見の原因としては、コストの負担が一番の懸念事項となっている。
2)	DB の日本での利用状況はいかがであるか？	日本の公共事業では DB は利用されていないが、最近国土交通省が DB を導入したプロジェクトを試行している。日本では、FIDIC の the Engineer も配置されていないが、これについても国土交通省が導入を検討中である。
3)	DB の守秘義務についてはどうなっているか？	アジュディケーターの CV では、過去に関与したプロジェクトの紛争の詳細内容や DB の裁定内容は記載しない。AJCE アジュディケーターの場合、登録前に AJCE の倫理規定の遵守を誓約してもらっており、倫理規定には職業上の守秘義務規定が含まれている。
4)	DB の導入については、インドネシアの数々の国内規則との調整を図る必要があるのではないかと？	DB の裁定は、契約の枠組み中での契約当事者の合意事項であり、国内法規と対立を起こすことはないと考えられる。また、DB の裁定には必ずその理由が付されるので、契約当事者以外の機関がその裁定に異議を唱えるのであれば、その根拠を示す必要がある。
5)	現在、P/Q を実施している JICA 融資案	会計監査院と話し合いの場を持ち、先ず DB 導入

質問	回答
	<p>件を担当している。契約書にはDBが採用されている。融資契約にはDB費用が見込まれていないので、今後会計監査院から指摘される可能性があり、どのように対応したらよいのであろうか？また、将来の円借款案件ではこのようなことが起こらないように、どのように対応されるべきであるか？</p>
6)	<p>EPC契約においてもDBは適用可能であるのか。</p> <p>DBはデザインビルド契約やEPC契約など、幅広い契約形態に適用できる。円借款案件であるトルコの鉄道トンネルプロジェクトでは、FIDICシルバースタックが使用され、常設DBが設置された。</p>
7)	<p>ナショナルアジュディケーター審査のためのAJCEのクライテリアはFIDICの規則に準じたものであると理解するが、これを他の国にも当てはめると、厳しすぎるということはないか？</p> <p>AJCEの規則は、FIDICの推奨するガイドラインを踏襲している。質の高いアジュディケーターを選抜するためには、妥当なクライテリアであると考えている。結果として現状では7名のみ登録されている。</p> <p>アジュディケーターは豊富な経験を持ち、契約当事者から尊敬されるような人物である必要がある。FIDIC President's List Approved Adjudicatorの平均年齢は65歳を超えており、中には80歳以上の方もいる。</p> <p>AJCEのクライテリアには「海外プロジェクトの経験」があるが、インドネシアの場合は国内に多数の国際プロジェクトが存在するので、それほど高いハードルにはならないのではないかと考える。</p>

Dispute Board (DB) Questionnaire

Q1. Which entity do you belong to?

- Government
 Contractor
 Consultant
 Law firm
 Other ()

Q2. How was today's seminar? (Please check *all* that apply)

- (1) Interesting?: extremely very much fair not very much not at all
 (2) Useful? extremely very much fair not very much not at all
 (3) Clear and easy to understand?. extremely very much fair not very much not at all
 (4) Other comments:
 ()

Q3. Are you willing to adopt DB for the project you are / will be concerned?

- Yes, I want to adopt DB.
 No, I don't want to adopt DB.
 No, but I will adopt DB if certain issues, which I am concerned about, are cleared.

Q4. (For the persons who have selected "YES" in Q3)

4-1 Why do you think you want to adopt DB? (Please check *all* that apply)

- (1) I know well about benefit of DB.
 (2) I think it works well in my country.
 (3) DB is cost-effective.
 (4) I think disputes / conflicts likely to happen in the project.
 (5) Settlement of disputes / conflicts by ourselves is difficult without DB.
 (6) DB most likely makes fair decision.
 (7) Though there are few adjudicators now, it can be promoted through proper training and monitoring program/ system in my country.
 (8) Others ()

4-2 Which is the BIGGEST reason among those above?

Fill in the number: ()

Q5. (For the persons who have selected "NO" in Q3)

5-1 Why do you think you don't want to adopt DB? (Please check *all* that apply)

- (1) I don't know well about DB.
 (2) I doubt the effect. / I don't think it works well in my country.
 (3) DB costs high.
 (4) I think disputes / conflicts are not likely to happen in the project.
 (5) We can settle disputes / conflicts by ourselves without DB.

アンケート調査結果集計

質問事項		ベトナム	スリランカ	フィリピン	インドネシア
Q1	Which entity do you belong to?				
	Government	64%	63%	57%	56%
	Contractor	5%	7%	0%	5%
	Consultant	20%	26%	28%	21%
	Law firm	5%	1%	9%	0%
	Other	7%	1%	6%	18%
Q2	How was today's seminar?				
(1)	Interesting?				
	extremely	5%	6%	11%	23%
	very much	59%	60%	71%	41%
	fair	36%	32%	18%	31%
	not very much	0%	2%	0%	5%
	not at all	0%	0%	0%	0%
(2)	Useful?				
	extremely	13%	16%	15%	19%
	very much	68%	64%	61%	59%
	fair	20%	20%	24%	22%
	not very much	0%	0%	0%	0%
	not at all	0%	0%	0%	0%
(3)	Clear and easy to understand?				
	extremely	14%	15%	11%	11%
	very much	43%	55%	62%	37%
	fair	41%	29%	27%	40%
	not very much	3%	2%	0%	11%
	not at all	0%	0%	0%	0%
Q3	Are you willing to adopt DB for the project you are / will be concerned?				
	Yes, I want to adopt DB.	50%	65%	60%	47%
	No, I don't want to adopt DB.	10%	3%	9%	0%
	No, but I will adopt DB if certain issues are cleared.	40%	32%	31%	53%
Q4	(For the persons who have selected "YES" in Q3)				
Q4-1	Why do you think you want to adopt DB?				
	I know well about benefit of DB.	13%	12%	13%	11%
	I think it works well in my country.	14%	8%	9%	5%
	DB is cost-effective.	8%	15%	11%	19%
	I think disputes / conflicts likely to happen in the project.	26%	19%	19%	25%
	Settlement of disputes / conflicts by ourselves is difficult without DB.	14%	12%	8%	6%
	DB most likely makes fair decision.	16%	12%	15%	19%
	Though there are few adjudicators now, it can be promoted through proper training and monitoring program/ system in	9%	19%	21%	13%

質問事項		ベトナム	スリランカ	フィリピン	インドネシア
	my country.				
	Others	1%	4%	5%	2%
Q4-2	Which is the BIGGEST reason among those above?				
	I know well about benefit of DB.	9%	21%	12%	6%
	I think it works well in my country.	0%	7%	0%	6%
	DB is cost-effective.	18%	19%	12%	17%
	I think disputes / conflicts likely to happen in the project.	59%	21%	32%	50%
	Settlement of disputes / conflicts by ourselves is difficult without DB.	0%	16%	4%	0%
	DB most likely makes fair decision.	14%	7%	20%	17%
	Though there are few adjudicators now, it can be promoted through proper training and monitoring program/ system in my country.	0%	7%	20%	0%
	Others	0%	2%	0%	6%
Q5	(For the persons who have selected “NO” in Q3)				
Q5-1	Why do you think you don't want to adopt DB?				
	I don't know well about DB.	10%	2%	2%	17%
	I doubt the effect. / I don't think it works well in my country.	22%	20%	19%	17%
	DB costs high.	31%	31%	33%	25%
	I think disputes / conflicts are not likely to happen in the project.	3%	9%	3%	6%
	We can settle disputes / conflicts by ourselves without DB.	10%	24%	16%	8%
	I'm afraid DB might make unfair decision.	8%	2%	7%	4%
	It's difficult to find adequate adjudicators. / There are few certified adjudicators.	8%	7%	16%	15%
	Others	7%	5%	5%	8%
Q4-2	Which is the BIGGEST reason among those above?				
	I don't know well about DB.	10%	0%	7%	18%
	I doubt the effect. / I don't think it works well in my country.	24%	13%	7%	18%
	DB costs high.	33%	58%	67%	35%
	I think disputes / conflicts are not likely to happen in the project.	0%	8%	0%	0%
	We can settle disputes / conflicts by ourselves without DB.	0%	8%	7%	6%
	I'm afraid DB might make unfair decision.	5%	0%	0%	0%
	It's difficult to find adequate adjudicators. / There are few certified adjudicators.	10%	0%	13%	6%
	Others	19%	13%	0%	18%

アンケート調査の参加者コメント

質問事項： Please describe your questions or unclear issues regarding Dispute Board.

1. ベトナム

No.	Comments
1	<p>In construction contract, in the Bill of Quantity, we have the name of items & quantity of it, but there is no unit price and sum cost of this item (This item was presented in DWG of Bidding Documents and Contract). Just before construction of this item, Contractor asked the Variation Order for this item, but the Client said it was in the DWG and BoQ of Contract, so Contractor has to do it anyway, but Contractor insisted on asking the Variation Order or they will not build this item (This item must be constructed for the Completion of the Project).</p> <p>Please send me the answers for the following question.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Who is right? How much of right for them? Why? 2. How to solve this matter with the best way? 3. Who will be responsible for this mistake? Why?
2	<ol style="list-style-type: none"> 1. At present, Vietnamese Government has not issued any instructions about establishment and the way of operation of DB. Therefore, with the role of Government Management Authority, we can not conduct DB for the contract. We need the cooperation among Ministries and Branches concerned to establish the provisions. 2. Which are criteria for members of DB? JICA should give recommendations in the Sample Bidding Documents. 3. The cost for DB must be included in the total investment, which shall be agreed between JICA and Borrower at the appraisal period.
3	<ol style="list-style-type: none"> 1. How much does it cost if we hire a DB organization for our project? (%) 2. Does DB organization supervise contract to reduce dispute? In ??? implement contract period?
4	<ol style="list-style-type: none"> 1. Who sign the contract with DB. 2. How to solve the disputes between investors, Contractors, Engineers and the DB? In case a DB as a member of all Association with another DB is assigned to solve a dispute that involves the second DB, whether the resolution of this DB is objective? We should think of the solution for such cases.
5	Nationality of DB member in JICA project.
6	<ol style="list-style-type: none"> 1. DB cost high? 2. It's difficult to find adequate adjudicators? 3. We can settle disputes by ourselves without DB? 4. When it can be training and monitoring in my country?
7	<ol style="list-style-type: none"> 1. I want JICA should be prepare more documents with dispute board for implemented contract 2. Setting more model contract to implement project
8	<ol style="list-style-type: none"> 1. Basing on the FIDIC Contract Form 1999 or MDB 2006, Pink Book 2010, the DB apply

No.	Comments
	<p>one by one project and the members are selected from FIDIC list those are mostly come from overseas countries. So the cost for DB so high.</p> <p>2. I propose JICA to cooperate with associations in Vietnam such as : VIAC, ICC, VECAS (our organization) to find the way to establish the arbitrators list in Vietnam in future.</p>
9	<p>1. What is qualified requirement of DB</p> <p>2. Criteria to select DB member</p> <p>3. What is major difference with others? (PMC, arbitration, court)</p>
10	<p>1. Can Employer include the cost of DB in the loan amount to be approved by JICA?</p> <p>2. In FIDIC 1987, if the Engineer's Decision in 67.1 is already rendered, can the Parties disregard and agree to establish a DB to settle the dispute.</p> <p>3. How can the Party replace a DB Member.</p>

2. スリランカ

No.	Comments
1	<p>Selecting more appropriate member or members for DB in very specific way</p> <p>Acceptance of local members to JICA or suitable guideline for acceptance</p>
2	<p>1) In Sri Lanka, is there a standard charge (remuneration to DB) established?</p> <p>2) Why can it be made compulsory to the contract?</p> <p>3) See the possibility of introducing categories of DB depending on the nature of contract (the nature of the contract should be clearly spelled out)</p>
3	<p>ACESL hope to steer your operation in Sri Lanka. ACESL comprising of well established consultants all over the country. If you concern about this please contact undersigned</p>
4	<p>I would like to know how we can incorporate DB for resolutions of dispute in contract documents of JICA funded projects. Further I want to know whether this is compulsory in JICA funded projects in Sri Lanka.</p>
5	<p>Prefer to follow FIDIC training on DB assignment</p>
6	<p>1. I am of the view that amicable settlement should come as the first option of the dispute resolution method in the document.</p> <p>2. Further, I am with the idea of ad-hoc DB rather than a standing one.</p>
7	<p>1. Can JICA appoint a standing DB for projects funded with ODA Loans so that it will be cost effective for developing countries such as Sri Lanka</p> <p>2. Many speakers at today's seminar discouraged appointment of lawyers to DB. But lawyers are considered for application to FIDIC adjudicator programs</p>
8	<p>1. How to assess the qualifications and experiences of a DB member before appointing?</p> <p>2. What is the position of adjudicators list of Sri Lanka?</p> <p>3. What are the pre-qualifications and experiences need to be satisfied in order to join as an adjudicator in the National List (Sri Lanka)? Where can I find them?</p>
9	<p>Cost of adjudication is very uncertain. At the beginning neither party can estimate the cost. Therefore, the client cannot budget or the contractor is in-dark; how to guide the</p>

No.	Comments
	client/consultant or the contractor?
10	Adaptability of contract clause stating that DB decision should be final and enforceable. Can it be done?
11	In conditions of contracts (COC) of the FIDIC-MDB document, only the provision is available for a “FULL TIME DB” (Standing Dispute Board). The provision to appoint a “ADHOC DB” also shall be made available in appropriate
12	In Sri Lanka there are very few number of DAB member. Most of them are not competent enough due to lack of experience. Some of them are give partial decision because they have connection with contractor than employer organization. I propose and short term training to build up new suitable members through JICA or any other finance assistance.
13	Thank you very much for organizing a very informative seminar on Dispatch Board.
14	At the ICTAD seminar, it is stated that Dispute Resolution Board cannot give any instruction opinions or comments regarding construction or other related activities. But today seminar it is stated that opinion can be given if both parties are agreed. It is required clarification regarding this.
15	1. Not clear whether DB and DAB are same or not?
16	<ol style="list-style-type: none"> 1. FIDIC contains Dispute Adjudication Board. It is not clear whether dispute board is prior to above adjudication board. 2. As the cost seems to be high, scope of the project may have to be reduced. 3. It is better to increase no. of local adjudicators.
17	What is the recommended with financial limit (contract price) to have BD for particular contract.
18	<ol style="list-style-type: none"> 1. The services to be provided by the DAB for retainer should be clearly defined. This is a contentious issue in Sri Lanka. 2. Some members take up too many DB assignments leaving them no time to attend to problems promptly-there should be a limit a range. 3. People who act the dual rolls of contractor’s representatives for arbitration matters and also act as DB member in other contracts pause an ethical question.
19	<ol style="list-style-type: none"> 1. Suggest the problem of implementation of DB decisions be covered in more detail 2. Should a notice of dissatisfaction be accompanied by a mandatory notice of referral to arbitration
20	Lack of implementation mechanism in the DB process is a disadvantage
21	<ol style="list-style-type: none"> 1. What is the role of the engineer at a hearing? Can he make presentation or responses on behalf of the Employer? 2. In what way can the DB initiate dispute prevention?
22	The FIDIC conditions of contracts for Civil works do not have provision for Ad-Hoc adjudication. Does it indicate that Ad-hoc adjudication is disallowed or not recommended for Civil work contracts?
23	1. Prof. Omoto stated, if a party give a Notice of Dissatisfaction but do not invoke arbitration, e.g. DAB decision to pay Employer do not pay. Aggrieved party invokes arbitration, for

No.	Comments
	<p>implementation of DAB award, say arbitrator give award to implement DAB decision. Isn't arbitrator in breach of National Justice? Not heard? I think in UK such award was overturned by Court on this basis? Do you think Sri Lanka being common law country also has persuasive effect on this case?</p> <p>2. Pls arrangement for National Adjudication Assessment in Sri Lanka too with a subsidized rate in SL or closer Asian country.</p>
24	<p>1. Limit of contract amount to be introduced for appointment for DB.</p> <p>2. Cost involvement of DB must be depend on the contract amount</p>
25	<p>You need to be actively promoting "Impartiality" and "Integrity" of DB process, Away From government influence in Sri Lanka</p>

3. フィリピン

No.	Comments
1	The individual functions of DB, the engineers, the lawyers, the arbitrators regarding projects.
2	<p>1. Still unclear for me about the general roles and functions of a DB/DAB in the implementation of a domestic and international projects to be adopted here in the Philippines.</p> <p>2. But if certain issues, regarding DB functions/roles are clear enough then it will probably works well in our country.</p>
3	<p>1. At present, government contracts (infra, good and services) are referred to government procurement policy Board (CPPB). What are the implications if there will be DRB, DAB or CDB?</p> <p>2. The concept seems very good to local contracts.</p>
4	I perceived FIDIC to be more beneficial to the contractor considering that the client have an agreement with the consultant who will work for the smooth implementation of the project in favor of the client.
5	The remaining issue is how to make DB decision enforceable between contracting parties without going further to arbitration which will entail additional cost
6	<p>1. What if certain issues/disputes were not resolved by DB or one of the party did not agree with decision of DB? (This might also lead to arbitration/litigation). Will the decision of DB can be imposed legally? (or enforced)</p> <p>2. From my personal point of view, I guess the Philippine government is not ready yet in embracing totally the DB due to absent of relevant laws, and lack of knowledge on the advantages and disadvantages of engaging a DB in a project.</p> <p>3. Pros against cons should be presented or make known (in engaging DB in a project), because I believe the presentation is a bit one sided.(if there are cons)</p> <p>4. Arbitration/litigation is not embedded in Filipino culture. Dispute or issues usually resolve on its early stage.</p>

No.	Comments
	5. However, I believe DB can still be promoted in the Philippines through proper training, information dissemination, etc.
7	<ol style="list-style-type: none"> 1. We have encountered civil works project which are funded by foreign loans. Our concern is that in cases where the project is an export credit (i.e. a condition of the loan agreement is that we need to purchase the goods and services from supplier in the country of the vender), the suppliers always insist on interpreting the contract according to their laws. 2. On our part we will insist on interpreting it according to Philippine laws, based on the sites of the project. How can DB assist in this dispute when it is still in the contract preparation phase?
8	<ol style="list-style-type: none"> 1. Are the parties bound to follow the decisions/recommendations of the DB since it is not legally recognized in the Philippine? 2. How to set up a dispute Board? Is there a normal available in JICA that can be followed?
9	<ol style="list-style-type: none"> 1. The Dispute Board manual should clearly state or differentiate the roles and responsibilities of the DB, the guide on how to select adjudicators, the estimated cost so that it could be factored / considered in the planning stage should be provided. 2. The advantages and disadvantages of DB should also be included in the manual. The list of adjudicators and their qualifications maybe provided. 3. Also the guide on how to employ a DB, where to address and if there are forms that should be filled in or pro-forma contract of TOR or expected output it possible, should be included.
10	What if both parties don't agree with DB, what will happen?
11	How long is the usual engagement of DB with the Employer?
12	The DB mechanism is not a clear assurance that issues pertaining to contract implementation will not reach the arbitration process. It may happen that a party is not satisfied with the DB's decision. In this case, he/she may resort to avail by the arbitration clause in the contract. Then there will be double expense on the part of the contracting parties, i.e., DB fees and arbitral award.
13	If a person is appointed as a member of a DB and receives retainer fee, is he precluded from being appointed as member of another DB.
14	I wish the DOTC legal department will be invited/included in future FIDIC and DB trainings.
15	<ol style="list-style-type: none"> 1. Case of USA: What brought about increase in use of DB? What did USA see in DB that merited use in resolution? 2. Is the DB mechanism being lobbied for government institution obligation? (Such as ADR in US Federal Courts)
16	<ol style="list-style-type: none"> 1. Will the process of adjudicator assessment and registration applied in JAPAN be also applied in the development of national adjudicators in the Philippines? 2. If so, when and where will be the announcement for submission of application be posted? 3. May a government official be a member of dispute board?
17	1. Given that the acceptability of a DB is still in its "infancy", how far are we from the

No.	Comments
	<p>establishment of a standard daily rate fee for DB members?</p> <p>2. Can the ICSID-recommended daily rate be considered as a “ballpark figure” for a 3-members standing DAB?</p>
18	<p>1. Being in project 1 construction management for more than 25 years or so, it has always been or project owners rely on the project management or construction management team to resolve disputes as it arises. It appears from the lecture today that DB maybe well within the function of construction management team (assuming that CM team is experienced and capable of handling dispute)</p> <p>2. There is no person not to support DB it were to talk about coping with or to be at far with international practice. But the prohibitive cost of having one is a major concern for private developers.</p>
19	Is the DB site visit at the interval of not less than 70 days ideal time to be abreast of activities in contract implementation?
20	<p>1. Difficult to quantify cost of maintaining DB. Even assuming that funding institutions agrees to include the cost of DB in the loan proceeds, if the provisional cost exceeded the actual cost of maintaining the DB, who will shoulder the excess cost?</p> <p>2. Will JICA be willing to fund or subsidize training of potential adjudicators?</p> <p>3. Who will spearhead the formation of adjudicators list?</p>
21	The only unclear this is the process of re-registration as dispute adjudicators.
22	<p>1. In the Philippines, public-private partnership (PPP) scheme is being promoted by the current administration. Against this background how can the dispute board concept become relevant and applicable?</p> <p>2. Considering the cost impact of incorporating a DB mechanism under a contract, what measures / strategy can be taken to entice private sector in investing in such contractual management enhancement scheme. Adding such cost into the project cost may only ultimately burden the public since “User’s Pay Principle” is the underlying policy of a PPP arrangement.</p> <p>3. How can the public be better informed that the benefits of DB far outweigh its cost?</p>
23	<p>1. I asked if the contract can fix the cost of DB by setting a cap on the fees of the DB members.</p> <p>2. The cost of DB should be included or an item in the project cost, not subject to tax.</p> <p>3. Who is the appointing authority in case the parties fail to agree on the chair? It will be speedier if the chance is determined by a simple.....</p> <p>4. Limit or eliminate challenges to the DB members.</p> <p>5. The nationality requirement for chairman of the DB should be suspended until the pool of qualified practitioners reach a viable number.</p>

No.	Comments
24	One of the perceived barriers on the use of DAB/DB is the high cost of training of locals for the national list of DAB/DB given that currently there is no assurance of the enforceability of the clause on DAB is the FIDIC, MDB or JICA contracts. Another perceived barrier is the unfamiliarity of construction industry stakeholders with the DAB/DBA. JICA's advocacy of familiarizing stakeholders with the DAB/DB is commendable and noteworthy. Is there any more plan on JICA's part to subsidize the training of local in Manila? It would be most welcome.
25	<ol style="list-style-type: none"> 1. Thank you for inviting us and giving us the opportunity to make a presentation. It was great to see the well organized big event. 2. One suggestion is that Q&A session must be held after each presentation. It will make the seminar more active and useful for all the participants. Time constraint can be overcome by shorter, more focused presentation. 3. Anyway, thank you and good luck for all.

4. インドネシア

No.	Comments
1	Important for the training DB and make use DB for all level.
2	Who is the member of DB? I think it is better to consist of local expert who really understand the problem in ground.
3	<ol style="list-style-type: none"> 1. Basically I agree use a DB for the contract. That is very helpful for the project especially for the big works such as, airport, elective power plant, industrial plant, toll road etc. 2. But otherwise, until today no budget allocation for DB (in loan agreement or government budget)
4	<ol style="list-style-type: none"> 1. Procedure of amicable settlement? 2. Requirements of adjudicator? 3. Is JICA going to implement this system in projects here? If yes, when will it? 4. DB is new. How do JICA make approaches to socialize the system?
5	<ol style="list-style-type: none"> 1. Dispute Board should be incorporated during SAPPORF or Project Memorandum Phase. 2. DB should also know the local construction law, to avoid wrong decision. 3. It is necessary to discuss with local auditor such as BPK, BPKP, KPK to inform them this activity in order to avoid misunderstanding.
6	<ol style="list-style-type: none"> 1. In the project supported by JICA Loan, I suggest that the DB's fee should be included in the Project Loan. 2. DB in project donor Agency should be disseminated to the Indonesia Auditor Body (BPK and BPKP) otherwise the project implementing will be in trouble.
7	How to relate DB to Indonesian law number 30 year 1999?
8	<ol style="list-style-type: none"> 1. What is the benefit to be the adjudicator? 2. Why is the requirement is so high?
9	JICA should have MoU with BPK, BPKP, LKPP about DB.

No.	Comments
10	How to decided the DB at the contract, because we don't know well the person of chase mention or use at the DB.
11	DB cost is too expensive.
12	DB's cost is very expensive.
13	Please consider; 1. Cost for DB is very expensive. 2. Unsolved dispute still process to arbitration. 3. It seems for government of Indonesia project especially highway still not popular. 4. Please DB manual send to us, if possible.
14	In the L/A or MoD not mentioned cost for DB. Where we can prepared the source of costs? If we have big project more than 1(one) package, how much we pay the DB, for example MRT2 there are 6 package constructions.
15	DB – Is it necessary desire on the bidding document, if yes is which part? ; (i) particular conditions or (ii) ITB (Instruction to Bidders)
16	What kind of response do you have after introducing DB to Asian countries such as India, Vietnam, etc? Are they using DB on their contracts?
17	1. How to minimize impartial from adjudicators. 2. Adjudicator as a project team. 3. What do you think Retainer fee equal with 50% PM salary?
18	1. How we can relate to DB's decisions, if there's a chance for the parties to disagree/dissatisfaction to the decisions? Would it be more money if the parties still should go to the arbitration 2. How we can make our own (Indonesia) National List?
19	1. Useful just for big project. 2. Just for construction engineers. (Construction cost is the biggest cost in the projects.)
20	1. For medium and less scale project, DB is costly for the contract. Moreover employer (Indonesian People) are likely to ask for some/small adjustment after contract/during construction. 2. In addition, the contractor (Indonesian contractor) usually realize that risk from beginning and consider such cost on their proposal. So, how to convince the effective use and to implement DB on such project are difficult.
21	How should is the DB's decision of the dispute is not accepted by parties involved and they bring the dispute to the court
22	If there is dispute between engineer and employee of contractor, can the DB also settle the dispute?

面談記録（ベトナム国計画投資省）

1. 日時：2012年1月11日、14:00 - 15:30
2. 場所：Ministry of Planning and Investment (MPI), Hanoi
3. 参加者：MPI
Mr. Le Van Tang (Director General, Public Procurement Agency)
Ms. Vu Quynh Le (Director, Center for Procurement Support)
JICA
伊藤隆司（調達監理課）、樺田泰明（調達監理課）、渡辺大介（JICA ベトナム事務所）
JICA 調査団
林幸伸（日本工営）、大本俊彦（大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタント）、山下佳彦（AJCE）、Volker Jurowich
4. 面談内容：
 - 1) DB の導入を進めるためには、ベトナム国内の法的枠組みとの整合性が図られる必要があると考える。（MPI）

セミナーにおいても説明したとおり、紛争解決を DB により行うという合意は契約当事者が契約で取り決めるものであるため、ベトナムの法規との対立はないのではないと理解している。（調査団）
 - 2) また、DB が発注者にもたらす便益が立証されないと DB はなかなか普及してゆかないのではないかと考える。（MPI）

我々は DB が建設契約紛争解決および予防の手段として現時点で一番優れていると考えている。同じプロジェクトで、DB 有り・DB 無しのケースを行えば、理屈では便益の有無は確認可能だが、実際にそのようなことはできないので、DB の経済的便益を立証することは容易ではない。但し、セミナーで説明したように、米国における統計では DB 導入により仲裁の実施が確実に削減されていることから、DB の導入が大きく増加している。発注者にとっては DB は一種の保険であると考えられるのではないか。（調査団）

また DB 有りの契約では、コントラクターのリスクが軽減されるので、入札価格が低減すると考えられる。欧米のコントラクターの中には DB 無しの契約には応札しないという会社もあると聞いている。（調査団）
 - 3) DB の便益を立証するために、JICA の経済的支援によるパイロットプロジェクトを実施し、それを通して DB 導入の課題や便益を確認し、首相に報告するのが良いと考える。パイロットプロジェクトは中規模以上の契約で、STEP ではなく国際競争入札の案件とした方が良い。DB はベトナムにとって全く新しい紛争解決手法であるため、今回のよ

添付-2.8.1

うなセミナーにより認知度を高めてゆく努力が必要である。継続的にステップバイステップで導入を進めてゆくのが現実的である。(MPI)

DBシステムをとにかく始めるということが重要であり、パイロットプロジェクトの実施は検討の価値がある。今後の大型案件のアップレザル時にパイロットプロジェクトの適用の可否を JICA とベトナム側で話し合ってはどうか？ (JICA)

以上

面談記録（ベトナム国国際仲裁センター）

1. 日時：2012年1月12日、14:00 - 16:00
2. 場所：Vietnam Engineering Consultant Association(VECAS), Hanoi
3. 参加者：Vietnam International Arbitration Centre (VIAC)
 - Mr. Vu Anh Duong (Deputy General Secretary of VIAC)
 - Mr. Le Chi Hien (Davis Langdon & Seah)
 - Dr. Le Net (LCT Lawyers)
 - Mr. Chau Huy Quang (LCT Lawyers)
 - Ms. Nguyen Huong Giang (LCT Lawyers)
 - Mr. Nguyen Tien Quang (Key Law Firm)JICA
 - 伊藤隆司（調達監理課）、樫田泰明（調達監理課）JICA 調査団
 - 林幸伸（日本工営）、大本俊彦（大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタント）、山下佳彦（AJCE）、Volker Jurowich
4. 面談内容：
 - 1) VIAC は 1993 年に Foreign Trade Arbitration Council (1963 年設立) と Maritime Arbitration Council (1964 年設立) が合併して設立された。商事紛争の仲裁及び調停による解決を行っており、2011 年の取扱件数は 83 件であった。国際紛争は取扱件数の 71% を占める。(VIAC)
 - 2) 2010 年の統計では、商事紛争の内の建設紛争の割合は、件数ベースで 17%、紛争金額ベースで 43% となっており、建設紛争は年々増加する傾向にある。
 - 3) VIAC には現在 120 名の仲裁人が登録している。この中には Engineering and Construction Expert が約 10 名含まれており、National adjudicator の候補者となるかもしれない。(VIAC)
 - 4) ベトナムでは、国内の商事仲裁法 (Commercial Arbitration Law) が制定されたのが 2010 年であり、依然として紛争は裁判により解決するという意識が強い（特に公共事業においては）。(VIAC)
 - 5) また、ODA 事業の発注者の多くは PMU であるが、彼らの裁量権は限られており、しばしば上位機関 (higher authority) の承認を必要とするところに問題がある。大型案件である Group A Project の決裁者は総理大臣である。(VIAC)

契約当事者の higher authority は契約書と心得るべきである。(調査団)
 - 6) FIDIC Conditions of Contract における DB プロセスはベトナムの Legal System (仲裁、訴訟) と抵触するか。(調査団)

他の法律（おそらく公共調達などを指すものと思われる）に DB が明記されていれば問題はないが、はっきりとは言えない。日本ではどうか。（VIAC）

日本でも DB が何らかの法律に書かれているわけではないが、契約の自由が保障されているので、当事者が合意して選んだ第三者の決定に拘束されるという合意をすれば、法によってこの合意は保証される。もしこの決定に異議を申し立てたとき仲裁あるいは訴訟による最終的解決をすることを合意していれば、当事者の法的最終紛争解決手段が保証される。ベトナムでも同じではないか。（調査団）

ベトナムでも民法に契約自由の原則があり、DB が法律に違反しているという解釈は無いと思われる。（VIAC）

- 7) FIDIC の DB プロセスでどの当事者からも期日内に異議申し立てがなく、DB の決定が、”final and binding”になった後で異議申し立てがあり、裁判所がこれを判断した例はないか。（VIAC）

”final and binding”の例は知らないが、”binding but not final”の例は二つある。一つは DB ではなく、The Engineer の決定に関してのもの（類推によって DB の決定に適用できる）で仲裁の最終決定が出るまで The Engineer の決定に従った行為を採らなければならないとしたもの、もう一つは DB の決定に関し、仲裁で DB の決定の実行を命ずることはできないとして、仲裁判断を棄却した例がある。（調査団）

以上

面談記録（ベトナム国財務省）

1. 日時：2012年1月13日、14:00 - 15:30
2. 場所：Ministry of Finance (MOF), Hanoi
3. 参加者：MOF
Ms. Nguyen Xuan Thao (Director of Bilateral Division II, Department of Debt Management and External Finance)
JICA
伊藤隆司（調達監理課）、樺田泰明（調達監理課）、渡辺大介（JICA ベトナム事務所）
JICA 調査団
林幸伸（日本工営）、大本俊彦（大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタント）、山下佳彦（AJCE）、Volker Jurowich
4. 面談内容：
 - 1) ベトナムではこれまで ADB の案件などで ad-hoc DB は経験しているが standing DB の経験はほとんどないのではないかと思います。standing DB では紛争の予防機能があり仲裁における高額な費用の負担を回避できるという理屈は理解できるが、DB を普及するためには発注者にとって便益があることのエビデンスが必要である。また、借款の借入国にとってはローンの commitment fee の負担の問題もある。(MOF)
 - 2) DB の普及のためには国内法との整合性を確保する必要があるのではないかと。(MOF)
紛争解決を DB により行うという合意は契約当事者が契約で取り決めるものであるため、ベトナムの法規との対立はないと理解している。(調査団)
借款契約は調印されたら「法」である。もし、借款契約において DB の適用が規定されるのであれば、それは法的効力を持つことになり、DB の利用が確実に進められる。現在はそのような取り決めにはなっていないと考える。いずれにしても、ベトナムにおいて DB が普及するには時間を要するのではないかとと思われる。(MOF)
 - 3) DB の普及はベトナムの投資環境を改善するためにも有用ではないかと考える。(JICA)

以上

面談記録（スリランカ国財務計画省）

1. 日時： 2012年1月16日、10:00 - 11:00
2012年1月18日、15:30 - 16:30
2. 場所： Ministry of Finance and Planning, Colombo
3. 参加者： MOFP
Mr. Mapa Pathirana (Director General, Department of External Resources (DER))
Mr. N. G. Dayarafka (Director General, Department of Public Finance, General Treasury)
Ms. Anula Harasgama (Additional Director General, Department of Public Finance, General Treasury)
Mr. I. A. Wimaladasa (Director, Department of Public Finance, General Treasury)
JICA
坂田章吉（資金協力支援部）
JICA 調査団
林幸伸（日本工営）、大本俊彦（大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタン
ト）、山下佳彦（AJCE）、Volker Jurowich、権本ゆかり（日本工営）
4. 面談内容：
 - 1) MOFP は全ての契約の方針を決定する権限を有することから、MOFP と事前に協議を行い、その上で実施機関を対象としたセミナーを行う方が良かったと思われる (MOFP)
 - 2) Standing DB は費用が高く、紛争が起こらなくとも費用が生ずる。費用は誰が負担するのか？また、仲裁という制度があるなかで DB は必要か？(MOFP)

中立な裁定を担保するためにも費用は、発注者と請負者で折半する。定期的に現場を訪問し、紛争の発生を抑制するのも DB の役割である。紛争が生じないのに費用が発生するという考えではなく、紛争を抑止するため、また紛争が生じた場合には仲裁などに比べて格段に早く解決することができるという機能を評価すべきである。仲裁人は通常法律家であり、また紛争発生後に対応するが、DB には通常エンジニアが含まれ、定期的に現場を訪問することから、プロジェクトの状況を常時良く把握しており、それが紛争の防止と早期解決につながる。(調査団)

DB は一種の保険であると捉えるべきである。(調査団)

コストセービングの観点からは、紛争が発生する可能性が少なくなったと判断された時点で、現場訪問を中断したり、DB を解任したりする事例もある。(調査団)
 - 3) アジュディケーターはどのように選ぶのか？(MOFP)

3人制 DB の場合は、発注者と請負者双方が1名ずつ推薦し、その2名が3人目の議

長を推薦する。全員について契約当事者の了解が必要である。(調査団)

以上

面談記録（スリランカ国仲裁センター）

1. 日時：2012年1月16日、14:30 - 15:30
2. 場所：Office of Mr. Hiran M. C. de Alwis, Colombo
3. 参加者：Sri Lanka National Arbitration Center (SLNAC)
Mr. Hiran M. C. de Alwis (Chief Executive/Legal Advisor Governor)
Mr. Johann Atapattu (Chief Operating Officer)
JICA
坂田章吉（資金協力支援部）
JICA 調査団
林幸伸（日本工営）、大本俊彦（大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタン
ト）、山下佳彦（AJCE）、Volker Jurowich、椎本ゆかり（日本工営）
4. 面談内容：
 - 1) SLNAC は 1985 年に設立された非政府の仲裁機関である。これまで対応したケースは約 100 件であり建設関連は 20～30 件である。90%のケースは国内紛争事案である。国際仲裁も増えていることから、将来は国際仲裁協会を立ち上げる必要があると考えている。(SLNAC)
 - 2) スリランカでは、内戦が沈静化して以来建設工事が増加しており、特に建設に関わる仲裁が増加している。協会の会員には、建設関係の National Construction Contractor Association や Chamber of Construction Industry of Sri Lanka も加盟している。(SLNAC)
 - 3) Dispute Board については、契約において紛争解決の手段として規定されていれば、その運用に国内法との不整合は無いと考える。DB の利点として紛争予防機能が挙げられているが、特に建設などの契約においては良いシステムではないかと考える。(SLNAC)
 - 4) 仲裁は多くの国において裁判と並んで紛争の最終判定であり契約当事者を拘束するが、他国において仲裁後に裁判で争う例が散見される。スリランカではそのようなケースは無いのか？（調査団）

仲裁の手続きの妥当性について裁判を行う場合はあるが、裁定内容について裁判を行う例は殆どないと考える。スリランカでは、裁定を遵守させるための特別法廷が commercial court に設置されている。(SLNAC)

以上

面談記録（フィリピン国・GPPB）

1. 日時：2012年2月8日、9:30 - 10:30
2. 場所：Government Procurement Policy Board (GPPB), Manila
3. 参加者：GPPB
Mr. Dennis S. Santiago (Executive Director III, Department of Budget and Management)
Mr. Manolito P. Madrasto (Executive Director, Philippine Contractors Association Inc.)
JICA
伊藤隆司（調達監理課）
JICA 調査団
林幸伸（日本工営）、大本俊彦（大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタント）、山下佳彦（AJCE）、Dr. Götz-Sebastian Hök、椎本ゆかり（日本工営）

4. 面談内容：

- 1) 調査団よりセミナー資料に基づき、DB の概要並びに DB 普及に関わるこれまでの JICA の活動を説明した。
- 2) DB のコンセプト自体は評価するが、発注者にとってはコストの負担が一番の懸念となっている。(GPPB)

DB コストの縮減策としては、従来は3日/月といわれていたリティナーフィーを1日/月とするなどの運用が実際に行われている。また、紛争に起因してプロジェクトの完成が遅延するケースがあるが、この場合の巨額の社会的損失も考慮すべきである。DB の導入によってプロジェクトの遅延が防止できれば、発注者にとって大きなメリットがある。(調査団)

- 3) フィリピンでは、DB の裁定が尊重されず容易に仲裁に進む例が多くみられる。(GPPB)
米国の統計では、紛争の98%がDBの裁定によりプロジェクトレベルで解決されている。また、DBによる紛争発生を抑止効果もより評価されるべきである。DBが配置され、紛争が発生しないというのがプロジェクトにとってベストである(調査団)
- 4) DB の普及については、その長所を示す具体的な事例を整理することが説得力ある手段となり得る。(GPPB)

そのことは関係者間でも十分に認識されており、今年のDRBF会議においても取り上げられる予定である。MDBのプロジェクトなどにおけるこれまでの経験を共有することは、DB普及の大きな推進力となり得る(調査団)

紛争解決の完璧なメカニズムは存在しない。新しいシステムの導入には反動が付きも

煮であるが、まずは経験するという前向きな姿勢が不可欠である。(JICA)

- 5) フィリピンでは、仲裁およびADRに関わる2つの法律が整備されている。契約自由の原則により、DBと国内法との対立はないと認識する。(GPPB)

以上

面談記録（フィリピン国アジア開発銀行）

1. 日時：2012年2月8日、11:00 - 13:00
2. 場所：Asian Development Bank (ADB), Manila
3. 参加者： ADB
Mr. Hamid Sharif (Principal Director Central Operations Service Office)
Mr. Taisuke Miyao (Procurement Specialist, Central Operation Service Division
2)
JICA
伊藤隆司（調達監理課）
JICA 調査団
林幸伸（日本工営）、大本俊彦（大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタント）、山下佳彦（AJCE）、Dr. Götz-Sebastian Hök、椎本ゆかり（日本工営）
4. 面談内容：
 - 1) ADB 融資のプロジェクトにおいても、発注者は DB の導入に対して概して後ろ向きであることが経験されている。発注者にとっては DB のコスト負担が最大の障壁となっている。（ADB）
 - 2) DB 普及に関わるこれまでの JICA の積極的な活動を高く評価する。DB の導入については ADB も JICA も共通の課題を抱えており、今後 JICA と協調して DB の普及を図ってゆきたい。（ADB）
 - 3) DB メンバーは技術者が主役になると理解しているが、やはり DB を成功させるにはアジュディケターの質の確保が重要である。DB コストの縮減のためには、ローカルアジュディケターの育成も課題である。また、紛争を最小化するためには the Engineer の質の確保も不可欠であると認識する。さらには ADB 職員の DB に対する理解度も高める必要がある（ADB）
 - 4) ADB のプロジェクトにおいても DB の経験はまだ少ないが、明日のセミナーではパキスタンのガジバロータ水力発電事業の事例を紹介したい。（ADB）
 - 5) 局長との面談の後、ADB 職員を対象にこれまでの JICA の取組と今後の契約についてプレゼンテーションを行った。

以上

面談記録（フィリピン国財務省）

1. 日時：2012年2月8日、16:00 - 16:30
2. 場所：Department of Finance (DOF), Manila
3. 参加者：DOF
Mr. Mr. Rommel S. Herrera (Director III, International Finance Group)
JICA
伊藤隆司（調達監理課）
JICA 調査団
林幸伸（日本工営）、大本俊彦（大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタント）、山下佳彦（AJCE）、Dr. Götz-Sebastian Hök
4. 面談内容：
 - 1) DBの普及については、コスト負担の問題と法的側面の課題が存在すると認識しており、まだ時間かかるものとする。明日のセミナーでは実施機関の意見なども確認したいと考えている。(DOF)

DBは、プロジェクトマネジメントの一環として、契約の枠組みの中で設置されるものであり、法的な枠組みとは別のシステムである。従い、法律に抵触することはないと考える。(調査団)
 - 2) DBの最大の利点は、紛争の予防であることは理解するが、DBが実際にどのように運用されるのかが契約当事者にまだ十分に理解されていないと認識しており、これも課題の一つである。(DOF)
 - 3) DBのコストが円借款でカバーされることは理解しているが、個々のプロジェクトの事業費の中で確実に予算化されることが重要である。(DOF)

JICAでは、規模の大きなプロジェクトにおいて先ずDBを確実に導入する意向である。(JICA)

以上

面談記録（フィリピン国 NEDA）

1. 日時：2012年2月10日、14:00 - 16:00
2. 場所：National Economic Development Authority (NEDA), Manila
3. 参加者：NEDA
Mr. Lito Abellera
JICA
伊藤隆司（調達監理課）
JICA 調査団
林幸伸（日本工営）、大本俊彦（大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタント）、山下佳彦（AJCE）、Dr. Götz-Sebastian Hök、椎本ゆかり（日本工営）
4. 面談内容：
 - 1) 円借款案件における JICA の DB 導入に関わる積極的な活動を歓迎する。(NEDA)
 - 2) JICA としては契約金額が1億ドルを超える契約（年間10～15案件）に対して常設 DB の設置を確実に図りたい。そのためにもプロジェクトアプレイザルの段階で担当省庁などの関係者と DB の導入について協議を行い、DB コストが確実に予算化されるように図る所存である。(JICA)
 - 3) DB のコスト負担を敬遠する向きがあるが、DB による紛争回避機能を評価すべきである。DB は法的な手段というよりもプロジェクトマネジメントのツールであることを認識いただきたい。一種の保険のような機能を有している。また、契約自由の原則により、法的な枠組みとの対立は生じないと認識している。(調査団)
 - 4) DB は PPP プロジェクトにも適用可能であるか。(NEDA)
十分に適用可能であり、日本では民間プロジェクトで DB を導入している事例がある。(調査団))
 - 5) DB 普及のための次の手段として、今年にはユーザーズマニュアルの整備を行う予定である。(JICA)

以上

面談記録（インドネシア国 LKPP）

1. 日時：2012年2月13日、14:00 - 15:00
2. 場所：National Public Procurement Agency (LKPP), Jakarta
3. 参加者：LKPP
Ms. Sarah Sadiqa (Director, Business Development and International Cooperation)
Mr. Fanni Sufiandi (Head of Section for Multilateral Cooperation)
Mr. Ichwan Makmur Nasution (Deputy Director, International Cooperation)
JICA
縦田泰明（調達監理課）
JICA 調査団
林幸伸（日本工営）、大本俊彦（大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタント）、山下佳彦（AJCE）、Dr. Götz-Sebastian Hök、椎本ゆかり（日本工営）
4. 面談内容：
 - 1) DB の概念は良好なものと認識しているが、その普及のためには財務省の理解が不可欠になると思われる。また、学界のサポートも有用である。今回のセミナーでは複数の大学からの参加が予定されていることは望ましく考える。(LKPP)
 - 2) インドネシアでは 1999 年に ADR に関わる法律 (No.30) が制定されており、さらに契約自由の原則により、DB はインドネシアの法的枠組みと対立しないと理解している。(LKPP)
 - 3) DB の最大の目的は紛争の予防にある。この点が仲裁とは大きく異なる。また、DB を導入することにより請負者のリスクが緩和され、入札金額の低下にも寄与することを認識すべきである。(調査団)
 - 4) ナショナルリストの整備について、JICA はどのように考えているのか。(LKPP)
今回の調査では、各国の FIDIC 加盟協会との協議を行い、ナショナルリストに関わる協会の意向や実施体制を確認している。調査の結果次第ではあるが、JICA がナショナルリストの整備を支援することも計画している。(調査団)
 - 5) DB は建設契約だけに適用されているのか。(LKPP)
施設の維持管理契約などにも導入されている事例がある。(調査団)

以上

面談記録（インドネシア国 BAPPENAS）

1. 日時：2012年2月15日、14:30 - 15:00
2. 場所：National Development Planning Agency (BAPPENAS), Jakarta
3. 参加者： BAPPENAS
Ms. Kennedy Simanjuntak (Director, Directorate of Bilateral Funding)
JICA
縦田泰明（調達監理課）
JICA 調査団
林幸伸（日本工営）、大本俊彦（大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタント）、山下佳彦（AJCE）、Dr. Götz-Sebastian Hök
4. 面談内容：
 - 1) JICA より DB の運用に関わる JICA の方針が説明された。
 - 2) 昨日の DB セミナーでは、公共事業省大臣が開会の挨拶をされたと部下から聞いた。公共事業省は多くのインフラプロジェクトを管轄していることから、大臣の参加は DB の普及を助長する上で大きなインパクトがあったと思われる。(BAPPENAS)
 - 3) DB の効用としては、DB が導入されることにより入札の競争性が促されるという事実も認識すべきである。またその費用はプロジェクトのマネジメントコストと捉えるべきである。(調査団)
 - 4) DB ナショナルリストの整備については、それを運用する主体に公平性と透明性が求められることに留意すべきである。(BAPPENAS)

以上

面談記録（インドネシア国 UKP4）

1. 日時：2012年2月15日、16:00 - 17:00
2. 場所： President Delivery Unit for Development Monitoring and Oversight (UKP4), Jakarta
3. 参加者： UKP4
Mr. T. Nirarta Samadhi (Deputy Director for Control)
Mr. Farchad Mahfud, Ms. Rivana Mezaya
JICA
縦田泰明（調達監理課）
JICA 調査団
林幸伸（日本工営）、大本俊彦（大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタント）、山下佳彦（AJCE）、Dr. Götz-Sebastian Hök、椎本ゆかり（日本工営）
4. 面談内容：
 - 1) DB の特筆すべき機能として紛争の発展を和解により防止することが挙げられる。DB は初期の段階で紛争の種を察知し、非公式見解を契約当事者に伝えることで和解に導くことができる。（調査団）
 - 2) DB は法的な紛争解決手段というよりもプロジェクトマネジメントの手法であると理解すべきである。（調査団）

その点は理解できるが、やはり発注者にとってはコストの負担が懸念材料として存在する。（UKP4）

FIDIC は DB を導入することで、契約書に数々の新たな付加価値を付与したと考えることができる。紛争予防、紛争の早期解決などが付加価値の代表格である。紛争に起因する工事の遅延によりもたらされる巨額の経済損失を考慮すべきである。これら付加価値には当然のことながら代償が必要となるが、投資に見合う付加価値を享受することができる。代償を単なる追加コストと考えるべきではない。（調査団）
 - 3) DB の運用とその効果について、具体的な事例を知りたい。事例を認識することで、DB の普及が促されるであろう。（UKP4）

以上

面談記録（ベトナム国 VECAS）

1. 日時：2012年1月12日、9:00 - 12:00
2. 場所：Vietnam Engineering Consultant Association(VECAS), Hanoi
3. 参加者：VECAS
 - Mr. Nguyen Dan Can (President)
 - Mr. Nguyen Van Chau (Vice Present, General Secretary)
 - Mr. Nguyen Lap Son (Director)
 - Mr. Cao Minh Khang (Director)
 - Mr. Le Duc Son (Secretary General)
 - Ms. Pham Thu Huang (Secretary)JICA
 - 伊藤隆司（調達監理課）、樫田泰明（調達監理課）JICA 調査団
 - 林幸伸（日本工営）、大本俊彦（日本工営）、山下佳彦（AJCE）、Volker Jurowich
4. 面談内容：
 - 1) ベトナムにおけるアジュディケーターリストについて
ベトナムには公表されているアジュディケーターリストがないので、VECASがNational Listを整備する。
 - 2) VECASにおけるFIDIC契約約款関連の活動
 - ・2003年 FIDIC 契約約款セミナー（200名が参加）
ADBが支援し、ハノイ市とホーチミン市で開催。
 - ・FIDIC 契約約款のベトナム語版出版
Red Book (1999年)、White Book (2006年)、Red Book MDB版(2006年)をベトナム語に翻訳し出版。
 - 3) VECASにおけるナショナルリストの整備について
VECASは、アジュディケーターのナショナルリストの整備に前向きである。整備に向けて以下の課題があげられた。
 - ① DBの普及・促進
ベトナム国内におけるBDの普及には、未だDBの理解が低いため、DBの認識(awareness)を高める必要がある。特に以下の3つの省庁との連携が重要である。(VECAS)
 - ・調達関連：計画投資省（Ministry of Planning and Investment）
 - ・法律関連：法務省（Ministry of Justice）
 - ・建設事業：建設省（Ministry of Construction）

- ② ナショナルリストの具体化に向けた準備
AJCEのアジュディケーター規程を参考として、ナショナルリストの具体化に向けた準備を進める。
- ③ アジュディケーター候補者
ベトナムのコンサルタントには FIDIC 契約約款に基づく国際プロジェクトの経験者がいるので、VECAS が候補者を選定する。(VECAS)
- ④ 資格要件及び経験・実績
アジュディケーター審査参加の要件に関連して、現在ベトナムには技術士法がないため、VECAS は関係機関と協議をしながら 2014 年頃を目処に技術士法案を政府に上程すべく準備を進めている。現状では、技術士以外の国内資格、海外で取得した資格、国際プロジェクトの経験、FIDIC 契約約款を使用したプロジェクトの実績等について、ベトナムの現状を勘案した要件の検討が必要である。(VECAS)
- ⑤ 能力開発
アジュディケーター候補者を対象とした FIDIC Module やワークショップなどの研修が必要である。ベトナムでは、JICA 主催の FIDIC 国際建設契約セミナー(2010 年；Module 1, 2)、同 DB セミナー(2012 年)等が開催されているが、アジュディケーター候補者には、これらの研修を受講してもらう必要がある。
- ⑥ 外部からの支援について
アジュディケーター候補者への研修(FIDIC Module 1, 2, 3, 3A)の実施について、VECAS は FIDIC、JICA や AJCE 等外部からの支援を期待している。
- 4) Joint Seminar の実施について
VECAS は他の FIDIC 会員協会との Joint Seminar 実施に前向きである。セミナーをベトナムで実施することを希望しているが、他国で実施する場合も参加の意向である。(VECAS)

【VECAS の概要】

- 1) Vietnam Engineering Consultant Association (VECAS)はベトナムを代表する FIDIC の会員協会である。ベトナム国内や海外のコンサルタント企業との連携を進めるために、1995 年にコンサルタントの専門組織として設立された。本部はハノイ市。VECAS の会員企業は 220 社、社員総数は約 5 万人。会員は土木・建築・エンジニアリング分野から構成されている。(VECAS)
- 2) 2003 年に ADB の支援により、FIDIC と連携してハノイ市とホーチミン市で FIDIC 契約約款セミナーを開催した。講師の一人は当時の FIDIC 会長 Richard Kell 氏が務め、ハノイでは 100 名、ホーチミンでは 200 名が参加した。(VECAS)

- 3) VECAS では以下の活動目標を掲げている。
- (1) 現在、活動拠点はハノイ市とホーチミン市の 2 つだが、今後、メコンデルタ、中部地域(北、中央、南)と北部の 5 つを追加し、本部の下に 7 地域の出先機関を設ける予定。
 - (2) 将来、研修・教育機関を設立し、海外からの講師による研修を行い会員の能力開発を図る。いずれはベトナム人講師により実施する。
 - (3) 現在の VECAS 会員は約半数が政府系の大手企業で構成されているが、今後中小企業の会員を増やしてゆく。

以上

面談記録（スリランカ国 ACESL）

1. 日時：2012年1月18日、9:00 - 12:00
2. 場所：Ridgeway Room, Royal Colombo Golf Club, Colombo
3. 参加者：ACESL (The Association of Consulting Engineers, Sri Lanka)

Mr. Malith Mendis (President)
Mr. Russel De Zilwa (Vice President)
Mr. J. Karunaratne (Vice present)
Mr. Ananda Senarath (Treasurer)
Mr. P.C. Jinasena (Council Member)
Mr. R. P. Lokuratno (Council Member)
Mr. Tudor Munashinghe (Past president)
Mr. Chaaminda Weerakoon (Secretary)

JICA

坂田章吉（資金協力支援部）

JICA 調査団

林幸伸（日本工営）、大本俊彦（日本工営）、山下佳彦（AJCE）、Volker Jurowich、
椎本ゆかり（日本工営）

4. 面談内容：

1) スリランカにおけるアジュディケーターリストについて

スリランカでは、IESL と ICTAD が国内プロジェクトを対象としたアジュディケーターリストを保有している。(ACESL)

公開：IESL(Institution of Engineers, Sri Lanka)：会員はすべて技術者
Arbitrator 12 名、Adjudicator 21 名

非公開：ICTAD (Institute for Construction Training and Development)

スリランカでは国内の事業に ICTAD の標準契約書を通して FIDIC 契約約款が採用されている。DB は国内の法体系に抵触しないが、課題は事業での DB の採用と DB 裁定の遵守と考えられる。

スリランカ国内のアジュディケーターリストは確立された基準に基づいたアセスメントが実施されていないため、資格の信頼性に問題がある。(ACESL)

2) ACESL における FIDIC 契約約款セミナーの開催

FIDIC 契約約款の研修については、世銀の資金援助を受けて政府機関ならびに民間を対象としてこれまで以下のとおりセミナーを開催した。(ACESL)

2008 年：FIDIC Module 1 (参加者：約 200 名)

2009 年：FIDIC Module 2 (参加者：約 120 名)

2010 年：FIDIC Module 3 (参加者：約 120 名)

3) ACESL におけるナショナルリストの整備について

ACESL は、アジュディケーター・ナショナルリストの整備に前向きである。実現に向けて以下の課題があげられた。

① DB の普及・促進

スリランカ国内では DB と仲裁が共に浸透しているが、アジュディケーターや仲裁人の Quality (専門職としての経験と能力) の確保と維持が課題となっている。また、DB のメリットが理解されていないため、その普及・促進が必要である。

② ナショナルリストの具体化に向けた準備

ACESL におけるナショナルリストの整備は、中期事業計画 (2011 - 2014) において計画されている。

ACESL は、AJCE のアジュディケーター規程に準拠したアセスメントを実施し、信頼に耐えるナショナルリストを作成したい意向である。尚、ACESL のナショナルリストは ACESL 会員を対象とする予定であり法律家の参入は歓迎しない。(ACESL)

③ アジュディケーター候補者

スリランカのコンサルタントには FIDIC 契約約款に基づく国際プロジェクトの経験者がいるので、ACESL が候補者を選定する。(ACESL)

④ 資格要件及び経験・実績

スリランカにおける技術者資格としては Chartered Engineer が存在する。大学卒業後 4 年間の経験があると受験資格が生じる。試験は筆記試験と口頭試問である。このほかに、建設クレームや紛争に関わりの深い Quantity Surveyor の資格制度も存在する。(ACESL)

⑤ 能力開発

アジュディケーター候補者を対象とした FIDIC Module や FIDIC 契約約款に関する研修やワークショップの開催が必要である。

⑥ 外部からの支援について

ACESL では、過去に FIDIC Module 1 及び 2 に関するセミナーを実施しているが、FIDIC Module 3 及び 3A に関する研修やワークショップが実施されていないため、ACESL は FIDIC、JICA や AJCE 等からの支援を期待している。

4) Joint Seminar の実施について

ACESL は他の FIDIC 会員協会との Joint Seminar 実施に前向きである。セミナーをスリランカで実施することを希望しているが、他国で実施する場合も参加の意向である。(ACESL)

【ACESL の概要】

- 1) ACESL はスリランカを代表する FIDIC の会員協会である。スリランカ国内のコンサルティング事業の促進や海外のコンサルタント企業との連携を図るために、1980 年に設立さ

れた。本部はコロンボ市。(ACESL)

- 2) ACESL は理事会（理事 11 名）と事務局により運営されており、会員企業は 13 社、個人会員数は 91 人である。主な活動内容は以下の通りである。(ACESL)
 - FIDIC 契約約款の普及・促進
 - 能力開発のための研修や FIDIC 契約約款に関わるセミナーの実施
 - 他協会との国際連携の促進
 - 今後の活動方針（中期事業計画 2011 - 2014）
（会員増強、資格の相互認証、アジュディケーターリストの作成、他協会との連携）
- 3) ACESL では現在専任の事務局員はいないが、中期事業計画において事務所および事務局員を確保する計画を有する。(ACESL)

以上

面談記録（フィリピン国 CECOPHIL）

1. 日時：2012年2月10日（木）9:00-12:00
2. 場所：JICA フィリピン事務所
3. 参加者

CECOPHIL (Council of Engineering Consultants of the Philippines)

Zenaida N. Abad (President)
Thelma C. Mauricio (Vice-President)
Virgilio A. Madrazo (Council Member)
Estelita Y. Gutierrez (Council Member)
Henry A. Muallil (Council Member)
Michael R. P. Reyes (Council Member)
Lani Pimentel (事務局員)

JICA

伊藤隆司 (調達監理課)

JICA 調査団

林幸伸 (日本工営)、大本俊彦 (大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタント)、
山下佳彦 (AJCE)、Dr. Götz-Sebastian Hök、椎本ゆかり (日本工営)

4. 面談内容

1) フィリピンにおけるナショナルリストについて

フィリピンには公表されているナショナルリストがないので、CECOPHIL がナショナルリストを整備する。

2) CECOPHIL における FIDIC 契約約款セミナーの開催

2008年～2010年
FIDIC Module 1 (1回)
FIDIC Module 2 (1回)
2011年
FIDIC Module 4 (1回)

3) CECOPHIL における National List の整備について

CECOPHIL は 2012 年度の活動項目に National List の整備を上げており、アジュディケーターリストの実現に前向きである。実現に向けて以下の課題があげられた。

① DB の普及・促進

フィリピン国内では仲裁が浸透しており、DB の機能とそのメリットが理解されていないため、DB の普及・促進が必要である。

② ナショナルリストの具体化に向けた準備

CECOPHIL は会長の傘下に National List 特別委員会を立ち上げた。今後は AJCE の

アジュディケーター規程を参考として、具体化に向けた準備を進める。(CECOPHIL)

③ アジュディケーター候補者

フィリピンのコンサルタントには FIDIC 契約約款に基づく国際プロジェクトの経験者がいるので、CECOPHIL が候補者を選定する。(CECOPHIL)

④ 資格要件及び経験・実績

候補者の資格要件の設定、FIDIC 契約約款に熟知し、国際プロジェクトの経験を有するレベルの高い技術者の発掘等が課題である。国際プロジェクトの経験としては、フィリピン国内で実施した業務でも海外案件であればよいことを伝えた。

⑤ 能力開発

アジュディケーター候補者を対象とした FIDIC Module や Adjudicator Workshop などの研修が必要である。CECOPHIL には FIDIC 認定講師がおり、FIDIC Module 1 及び 2 については対応可能であるが、JICA 等の支援も期待している。

⑥ 外部からの支援について

アジュディケーター候補者へのアジュディケーターワークショップ(FIDIC Module 3, 3A)やアセスメントの実施について、CECOPHIL は FIDIC、JICA や AJCE 等外部からの支援を期待している。

4) Joint Seminar の実施について

CECOPHIL は他の FIDIC 会員協会との Joint Seminar 実施に前向きである。セミナーをフィリピンで実施することを希望しているが、他国で実施する場合も参加の意向である。(CECOPHIL)

【CECOPHIL の概要】

CECOPHIL はフィリピンを代表する FIDIC の会員協会。1976 年に 9 社からなる協会 (CECOP) としてスタートした。その後、会員の国際市場における競争力向上と国内事業でのキープレーヤーを目指して、コンサルタントのみを会員とする協会 (CECOPHIL) として FIDIC に登録している。

1) 組織

CECOPHIL の会員企業は正会員 24 社、賛助会員 2 社。社員総数は約 3,500 人。会員は土木・建築・エンジニアリング分野のコンサルティング企業から構成されている。

CECOPHIL は理事会(会長: Ms. Zenaida N. Abad)、諮問委員会(Advisory Board)、常置委員会(7委員会)、と事務局により運営されている。

2) CECOPHIL の活動目標

- ① フィリピン国内の CE 地位向上。
- ② 発注者と会員の協働の促進。
- ③ フィリピン国内の CE 関連企業との連携促進。
- ④ フィリピン国内の CE 企業の利益の擁護。
- ⑤ フィリピン経済の成長への貢献。

以上

面談記録（インドネシア国 INKINDO）

1. 日時：2012年2月15日（水）10:00-12:00

2. 場所：INKINDO 事務所

3. 参加者

INKINDO (IKATAN NASIONAL KONSULTAN INDONESIA)

Mr. Zulkifli Halim (President)

Mr. John P. Pantouw (Vice-President)

Mr. Gusnando S. Anwar (Council Member)

Mr. Yulianto (Council Member)

Mr. Djoko Soepriyono (Council Member)

Mr. Jimmy S. Michael (Secretary General)

JICA

樫田泰明（調達監理課）

JICA 調査団

林幸伸（日本工営）、大本俊彦（大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタント）、
山下佳彦（AJCE）、Dr. Götz-Sebastian Hök、椎本ゆかり（日本工営）

4. 面談内容

1) インドネシアにおけるアジュディケーターリストについて

インドネシアには公表されているアジュディケーターリストがないので、INKINDO が National List を整備する。公共事業省が Mediation 関連の組織を設けている。

2) INKINDO における FIDIC 契約約款セミナーの開催

2008年 FIDIC Module 1（参加者 105名）

2010年 FIDIC Module1, Module 2（参加者 110名）

2010年 FIDIC Module 2（参加者 120名）

2011年 FIDIC Module 2 及び Silver Book（参加者 141名）

3) INKINDO におけるアジュディケーターリストの整備に向けた課題

INKINDO はアジュディケーターリストの整備に前向きである。整備に向けて以下の課題があげられた。

① FIDIC 契約約款に関する能力開発

インドネシアでは、過去に FIDIC Module セミナーが実施されたが、アジュディケーターワークショップ(FIDIC Module 3, 3A)の関するものがないため、ワークショップの開催が望まれている。

② ナショナルリストの整備に向けた体制

INKINDO は、AJCE が作成したアジュディケーター規程を参考に、FIDIC 委員会がナショナルリストの整備に向けた準備を進める、との報告を受けた。高い能力と十分な経験を要するアジュディケーター候補者の発掘が課題である。

③ 国内のアジュディケーターリストについて

インドネシアには公表されているアジュディケーターリストがなく、INKINDO がナショナルリストを整備する。

④ アジュディケーター候補者

インドネシアのコンサルタントや請負業者には FIDIC 契約約款に基づく事業の経験者がいるので、INKINDO が候補者を選定する。但し、候補者によっては FIDIC Module (1, 2, 3, 3A) を受講していない者が想定されるので、事前の研修が必要である。

⑤ 外部からの支援について

アジュディケーターワークショップやアセスメントの実施に向け、INKINDO は JICA や ADB などの融資機関、FIDIC、AJCE 等からの支援を期待している。

4) Joint Seminar の実施について

INKINDO は他の FIDIC 会員協会との Joint Seminar 実施に前向きである。セミナーをインドネシアで実施することを希望しているが、他国で実施する場合も参加の意向である。

【INKINDO の概要】

INKINDO はインドネシアを代表する FIDIC の会員協会。インドネシア国内のコンサルティング事業の促進や海外市場での競争力を強化するために 1970 年に IKINDO として設立された。1979 年にインドネシアエンジニアリング協会と合併し、INKINDO に改称された。

1) 組織

INKINDO の会員企業は大規模企業 (640 社)、中規模企業 (1, 872 社)、小規模企業 (4, 867 社) 合計 7, 379 社。会員企業の従業員数は約 35, 000 人。

INKINDO は理事会 (会長: Mr. Zulkifli Halim)、9 委員会と事務局 (事務局長: Mr. Jimmy S. Michael) により運営されている。

2) 主要な活動内容

- ① 会員の資格と能力の向上
- ② 国内事業や開発事業の計画・実施への参画

- ③ 会員相互の連携の促進
- ④ 会員の CE 業務の開発、CE の地位向上、良好な事業環境の創造
- ⑤ 国内外市場への参加の促進
- ⑥ INKINDO の倫理要綱や行動規範に準拠した公正な事業の実施

以上



平成 24 年 2 月 3 日

関係者 各位

独立行政法人国際協力機構 資金協力支援部

部長 三浦 和紀

独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 主 催
円借款事業における Dispute Board (紛争委員会) 普及セミナー
～Dispute Board Manual の解説～

ご案内

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

このたび『円借款事業における Dispute Board (紛争委員会) 普及セミナー～Dispute Board Manual の解説～』と題しまして、セミナーを開催する運びとなりましたので御案内申し上げます。

独立行政法人国際協力機構 (JICA) では土木工事の標準入札書類の改訂を 2009 年 6 月に行い、一般契約条件書として国際コンサルティングエンジニア連盟 (FIDIC) が国際融資機関 (MDB) と共同で開発した「MDB 調和化版」を採用しました。「MDB 調和化版」では、契約紛争の解決プロセスとして Dispute Board (紛争委員会) が導入されており、大きな特徴となっています。さらに、2010 年に改訂致しましたプラント工事用の標準入札書類においても Dispute Board が導入されています。

このような背景から、円借款案件においても今後 Dispute Board の設置が増加することが想定されますが、当機構では Dispute Board に対する円借款事業関係者の理解促進、及び円借款借入国の大半を占めるアジア地域における裁定人 (アジュディケーター) の育成を Dispute Board 導入・普及のための課題と認識し、2008 年度以降各種活動に取り組んで参りました。

今般、円借款事業関係者の理解促進を目的として作成中である Dispute Board Manual につきまして、本年夏に公開を予定しております公開に先立った概要の解説を目的として、本セミナーを開催する次第です。

是非とも、円借款事業に関わる多くの皆様に Dispute Board をご理解頂きたく、お手数ですが貴団体の会員の皆様に広くご紹介をいただいたうえで、50 名を上限として参加者をお取りまとめいただき、下記申込までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

[主催] 独立行政法人国際協力機構(JICA)資金協力支援部

[日時] 平成 24 年 3 月 6 日(火) 14:00~16:00(受付 13:30~)

[会場] 弘済会館(東京都千代田区麹町 5-1、<http://www.kousaikai.or.jp/hall/index.html>)

[定員] 100 名程度

[参加費] 無料

[プログラム]

- | | | |
|-------------|--|-------|
| 4:00~14:05 | 開会の辞
独立行政法人 国際協力機構(JICA) 資金協力支援部長 | 三浦 和紀 |
| 14:05~14:30 | 『Dispute Board 普及に関わる JICA の活動』(25 分)
日本工営株式会社 契約管理室長 | 林 幸伸 |
| 14:30~15:30 | 『Dispute Board Manual』(60 分)
国立大学法人 京都大学経営管理大学院客員教授 | 大本 俊彦 |
| 15:30~15:55 | 質疑応答・ディスカッション (25 分) | |
| 15:55~16:00 | 閉会の辞
独立行政法人 国際協力機構(JICA)資金協力支援部次長 | 坂田 章吉 |

以上

添付 - 3.2.1

Dispute Board 普及に向けての JICA の活動

林 幸伸

日本工営株式会社



円借款事業におけるDispute Board普及セミナー

Dispute Board普及に向けてのJICAの活動

2012年3月6日

林 幸伸
日本工営株式会社

Topics

2

- FIDIC契約書とDispute Board
- JICA のサンプル入札書類とDispute Board
- DB普及のための課題認識
- JICAの取り組み(利用側課題への対応)
- JICAの取り組み(供給側課題への対応)
- AJCEアジュディケーター・ナショナルリスト

JICA Dispute Board 普及セミナー-2012



3

FIDIC契約書とDispute Board

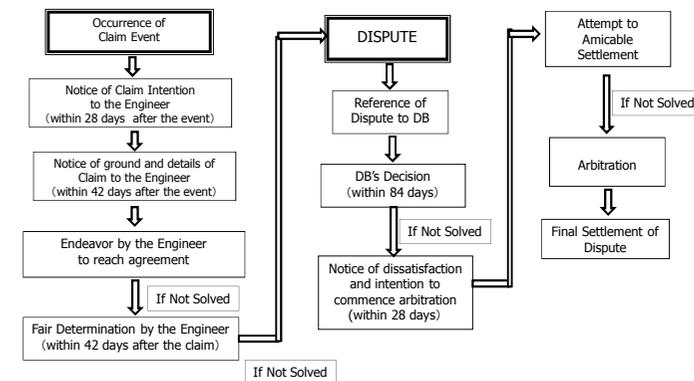
	FIDIC CC	Version (year)	Dispute Resolution (First Step)
1	Red (Construction)	1999	standing DB
2	MDB (Construction)	2010	standing DB
3	Yellow (Plant/Design Build)	1999	ad-hoc DB
4	Silver (EPC/Turn Key)	1999	ad-hoc DB
5	Gold (DBO)	2008	standing DB

JICA Dispute Board 普及セミナー-2012



4

クレームと紛争の解決プロセス(FIDIC MDB版)



JICA Dispute Board 普及セミナー-2012



JICA のサンプル入札書類とDispute Board

5

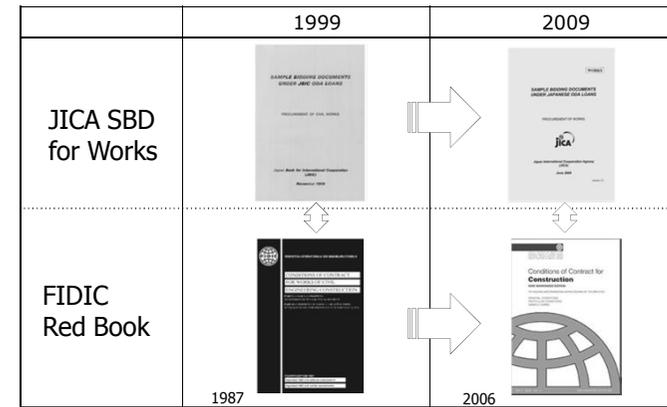
	JICA SBD	Version (year)	Conditions of Contract	Dispute Resolution (First Step)
1	Works	1.1 (2009)	FIDIC MDB harmonized edition	standing Dispute Board
2	Plant Design, Supply and Installation	1.0 (2010)	ENAA form	standing Dispute Board
3	Small Works	1.0 (2010)	MDB original	adjudicator



JICA Dispute Board 普及セミナー2012

JICA のサンプル入札書類とFIDIC契約書

6



JICA Dispute Board 普及セミナー2012

Dispute Board 普及への課題認識

7

1. Demand side issue (利用側の課題):
The users of DB has not been sufficiently familiar with DB.
(認知度の向上)
2. Supply side issue (供給側の課題):
Sufficient numbers of DB members (adjudicator) will (or are) not available to cope with increasing demands.
(適格なアジュディケーターのアベイラビリティの向上)



JICA Dispute Board 普及セミナー2012

JICAの取り組み(利用者側課題への対応)

8

1. DB普及セミナーの開催

No.	開催日	国	参加者数
1	2008年7月	日本(京都)	9
2	2008年7月	日本(東京)	123
3	2008年8月	インド(デリー)	16
4	2008年8月	フィリピン(マニラ)	111
5	2009年11月	カンボジア(プノンペン)	77
6	2009年11月	ベトナム(ハノイ)	157
7	2010年1月	バングラディッシュ(ダッカ)	53
8	2010年2月	スリランカ(コロンボ)	105
9	2010年2月	日本(東京)	73
10	2012年1月	ベトナム(ハノイ)	67
11	2012年1月	スリランカ(コロンボ)	86
12	2012年2月	フィリピン(マニラ)	66
13	2012年2月	インドネシア(ジャカルタ)	100
14	2012年3月	日本(東京)	80
	合計		1,133



JICA Dispute Board 普及セミナー2012

JICAの取り組み(利用者側課題への対応)

9

DBセミナープログラム (2012.1)

Time	Session	Speaker
10:00 - 10:05	5'	Opening Address
10:05 - 10:55	50'	• Basics of Dispute Board Mr. Yukinobu Hayashi Nippon Koei Co., Ltd.
10:55 - 11:45	50'	• Dispute Board Practice Prof. Toshihiko Omoto FIDIC President's List Adjudicator
11:45 - 12:15	30'	• Construction Dispute in Sri Lanka Mr. Tilak P. Kolonne Country Representative of DRBF in Sri Lanka
12:15 - 13:15	60'	Lunch
13:15 - 13:45	30'	• Dispute Board : JICA's Experience, Initiatives and Way Forward Mr. Shokichi Sakata Deputy Director General for Planning and Coordination, Financing Facilitation and Procurement Supervision Department, JICA
13:45 - 14:45	60'	• Key Requirements for Adjudicators Mr. Volker Jurovich President of Dispute Resolution Board Foundation (DRBF)
14:45 - 15:15	30'	• Creation of National List of Japanese Adjudicators Mr. Yoshihiko Yamashita Secretary General of Association of Japanese Consulting Engineer
15:15 - 15:35	20'	Coffee Break
15:35 - 16:25	50'	Q and A Session JICA Study Team
16:25 - 16:30	5'	Closing Remarks JICA

JICA Dispute Board 普及セミナー2012



JICAの取り組み(利用者側課題への対応)

10

セミナー参加者のDBの導入に対する意向 (2012年調査)

質問事項	ベトナム	スリランカ	フィリピン	インドネシア
Are you willing to adopt DB for the project you are / will be concerned?				
1) Yes, I want to adopt DB.	50%	65%	60%	47%
2) No, I don't want to adopt DB.	9%	3%	9%	0%
3) No, but I will adopt DB if certain issues are cleared.	41%	32%	31%	53%

JICA Dispute Board 普及セミナー2012



JICAの取り組み(利用側課題への対応)

11

DB導入に対する発注者の懸念事項

- DBは国のリーガルシステムと整合するか？
→ 紛争解決をDBプロセスにより行うという合意は、契約当事者が契約の枠組みの中で取り決めるものであるため(契約自由の原則)法規との対立は生じない。また、DBの裁定に不服な場合は、和解、仲裁という次のステップが用意されている。
- DBコストの負担が重い(コスト負担に見合う便益はあるか？)
→ DBの導入により以下の便益が期待できる。
 - 紛争発展への抑止機能
 - 素早い紛争の解決
 - プロジェクトの完成遅延の回避 (社会経済的損失の回避)
 - 仲裁の回避機能
 - 入札における競争状況の確保
 - 投資環境の改善

JICA Dispute Board 普及セミナー2012



JICAの取り組み(利用側課題への対応)

12

2. 現地政府側機関等とのダイアログ (2012年調査)

国	組織名
ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画投資省 (Ministry of Planning and Investment, MPI) ・ ベトナム国際仲裁センター (Vietnam International Arbitration Centre, VIAC) ・ 財務省 (Ministry of Finance, MOF)
スリランカ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財務計画省 (Ministry of Finance and Planning, MOFP) ・ スリランカ仲裁センター (Sri Lanka National Arbitration Center, SLNAC)
フィリピン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府調達政策委員会 (Government Procurement Policy Board, GPPB) ・ アジア開発銀行 (Asian Development Bank, ADB) ・ 財務省 (Department of Finance, DOF) ・ 国家経済開発局 (National Economic Development Authority, NEDA)
インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家公共調達局 (National Public Procurement Agency, LKPP) ・ 国家開発計画局 (National Development Planning Agency, BAPPENAS) ・ 大統領府開発管理局 (President Delivery Unit for Development Monitoring and Oversight, UKP4)

JICA Dispute Board 普及セミナー2012



JICAの取り組み(利用側課題への対応)

3. MDBsとのダイアログ

- 1) MDB (世銀、アジア銀、米州開発銀行)の融資プロジェクトにおけるDB導入の実態調査(2011)
- 2) JICA DBセミナーへの参加 (ADB, 2012)

4. JICAの活動の広報

- 1) DRBF 中南米会議におけるプレゼン(サンパウロ、2011.5)
- 2) DRBF 欧州会議におけるプレゼン(ブリュッセル、2011.10)
- 3) FIDIC Asia-Pacific User's Conferenceにおけるプレゼン(シンガポール、2012.6予定)



JICAの取り組み(供給側課題への対応)

1. ナショナルリスト事例調査(ドイツ、ポーランド、ルーマニア) (2010)
2. JICA DB Training Kitの開発(2010.3)
3. Training Kitの有効性検証(東京、2010.12)
 - アジュディケーター・トレーニングワークショップ(4日間)の開催
 - アジュディケーター・アセスメントワークショップ(3日間)の開催

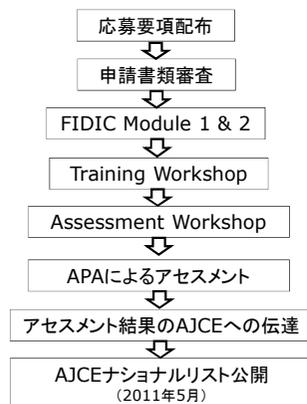


AJCEナショナルリストの整備

4. アジア地域におけるナショナルリスト整備に関わる支援(計画中)



AJCEナショナルリスト(1)



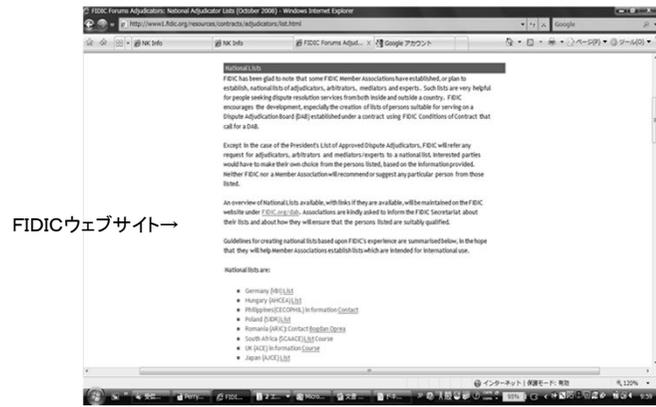
AJCEナショナルリスト(2)

AJCEウェブサイト



AJCEナショナルリスト(3)

17



FIDICウェブサイト→

JICA Dispute Board 普及セミナー2012



ご清聴ありがとうございました

JICA Dispute Board 普及セミナー2012



18

添付 - 3.2.2

Dispute Board Manual の解説

大本 俊彦
京 都 大 学



円借款事業におけるDispute Board普及セミナー

Dispute Board Manualの解説

JICA

2012年3月6日

京都大学経営管理大学院 客員教授
FIDIC公認アジュディケーター・審査員
FIDIC公認アジュディケーター
大本俊彦
omoto.toshihiko@nifty.com

© JICA/Toshihiko Omoto

本日の話題

- DBコンセプトのおさらい
- DB Manualの説明



© JICA/Toshihiko Omoto

DBコンセプトのおさらい



© JICA/Toshihiko Omoto

DB (Dispute Board)のコンセプト

- 3人の経験者のボードによる紛争の防止・早期解決
 - 中立・公正
 - FIDIC条件書を基本とする契約図書の解釈の経験
 - 契約紛争解決の経験
 - 同様工事の経験
 - 契約言語能力
- 工事着工時に設置～瑕疵通告期間終了(常設)
 - Ad hocはDBと考えない
 - FIDIC Yellow Book, Silver BookはStanding Boardに改訂される



© JICA/Toshihiko Omoto

DB (Dispute Board)のコンセプト

- 定期的な現場訪問
 - 初回はできるだけ早く実施
 - 関係者をよく知り、プロジェクト・チームの1員となる
 - 3～4ヶ月に1度、140日以上は空けない
 - 紛争の種の発見と当事者自らの和解を助ける
- 通常期間に提供されるべき情報
 - 工事月報
 - アップ・デートされた工程表
 - クレーム・ノーティス
 - Variation
 - その他重要な書簡



© JICA/Toshihiko Omoto

DB (Dispute Board)のコンセプト

- Informal -
opinion/advice/recommendation
 - 当事者の合意によって依頼
 - 意見の相違に関し、最大限利用
 - 受け入れるか非公式見解・勧告を基に交渉～和解
 - 当事者、DB自身に対し拘束力なし - 正式な付託 (Referral)時に異なる裁定の出る可能性を残す



© JICA/Toshihiko Omoto

DB (Dispute Board)のコンセプト

- Referral(付託)
 - 正式にDBに裁定(Decision)を出すよう、紛争を付託
 - 付託は工期末まで待たずに、その都度速やかに行う
 - 支払いの裁定が出ればキャッシュ・フローを助ける
 - 解決を早くして、工事に専念 - 協力関係を維持



© JICA/Toshihiko Omoto

DB (Dispute Board)のコンセプト

- Decision(裁定)
 - 付託後84日以内に出す
 - 裁定は両当事者を拘束し、すぐに実行しなければならない
 - 裁定後28日以内に不服通知を出せば後に仲裁に行くことができる。ただし、裁定の拘束性は変わらない、つまり、即実行しなければならない



© JICA/Toshihiko Omoto

DB (Dispute Board)のコンセプト

□ Amicable settlement (和解)

- 裁定に対する不服申し立てを行った場合でも、56日間は和解に努めなければならない
- 何のための56日間か?
 - (特に)発注機関内部でDB Decisionを受諾する承認を得るための期間
 - クーリング・オフ期間 - DB Decisionを基に冷静に再交渉を実施して和解を目指す
 - 両当事者のトップ・マネジメントで和解を目指す
 - Mock arbitration
 - Mini trial



© JICA/Toshihiko Omoto

DB (Dispute Board)のもたらす利点

- 紛争の予防と早期解決
- 契約マネジメント
 - The Engineerが契約条件書で求められている職務(林氏のまとめ)がよりよく全うできる
 - To be fair (unbiased) and professional
 - With proper interpretation of the Contract
 - After due consultation with the Employer and Contractor
 - コントラクターのつまらないクレーム、誇張されたクレームが無くなる
- ファイナンシャル・マネジメント
 - コントラクターのキャッシュ・フロー改善
 - 金利クレームの防止
- 契約にDBの規定があることから:
 - クレーム作業・紛争解決費用等の予備費を見積もらない - 入札金額が下がる
 - もしDBがなければ入札しないという欧州コントラクターがいる
 - したがって、質の高い入札者が集まる



© JICA/Toshihiko Omoto

DB (Dispute Board)の抱えている問題点

□ DB Decision

- National Lawとの抵触
 - DBは契約上の約束であり、DB Decisionを実行しないことは契約違反である
 - DB Decisionはそれ自身執行力はない
 - 実行されない場合、実行を求めて仲裁を開始
 - 現行FIDIC Red Book, MDB Harmonised Editionの文言が非常にまずい - 改訂が期待されている
 - FIDIC Gold Book (DBO: Design, Build and Operate)では改善されている



© JICA/Toshihiko Omoto

DB Manualの説明



© JICA/Toshihiko Omoto

DB Manualの目的

- DBユーザーの為のマニュアル
 - JICAローンの借入機関
 - JICAローカル・スタッフ
 - コンサルタント/コントラクター
 - 他の融資機関による利用-DBの協調プロモーション
- 2部構成
 - エグゼクティブ・サマリー: 概要を知りたい人のため
 - Appendix: 実務担当者が詳細を知るため



© JICA/Toshihiko Omoto

DB Manualの内容

- Acknowledgement
- Preface
- 1. Introduction
 - DB Manualの目的
 - DBの最大の特徴 - 紛争の予防
 - Ad hocを使わないように
 - このDB Manualは誰でも利用して欲しい
- 2. Brief Explanation of DB
 - DBコンセプトのおさらい



© JICA/Toshihiko Omoto

DB Manualの内容

- 3. Consideration at Pre-implementation Stage (発注者(コンサルタント)のプロジェクト計画時のガイド)
 - DB採用の決定
 - Appraisal時に予算への組込みフロー・チャート
 - 1人メンバーか3人メンバーか
 - コスト見積もり



© JICA/Toshihiko Omoto

DB Manualの内容

- 4. Consideration at preparation of Tender documents (発注者(コンサルタント)の入札図書作成時のガイド)
 - Contract Dataの記入
 - DB設置の期日
 - 1人DBか3人DBか
 - 1人DBの場合の推奨メンバー
 - DBメンバー指名機関
 - DBコスト支払いのためのProvisional Sumの準備



© JICA/Toshihiko Omoto

DB Manualの内容

- 5. Selection of DB members
 - どこでDBメンバーを探すか
 - DBメンバー選抜のフローチャート
 - DBメンバーの合意に失敗したとき
 - Feeの合意
 - 3者合意書



© JICA/Toshihiko Omoto

DB Manualの内容

- 6. Remuneration of DB members
 - DBメンバーへのフィー、必要経費の支払手順
 - DBメンバーからの請求
 - コントラクターによる100%の支払い
 - 出来高調書による50%の精算



© JICA/Toshihiko Omoto

DB Manualの内容

- 7. Site Visit
 - 初回の現場訪問
 - 時期
 - アジェンダ
 - 初回の重要性
 - 定期的現場訪問
 - Site Visit Report



© JICA/Toshihiko Omoto

DB Manualの内容

- 8. Information to DB during Intervals between Site visit
 - 現場訪問していない時期のDBメンバーへの情報提供
 - 毎月出来高レポート
 - 改訂工事スケジュール
 - クレーム通告
 - 変更
 - 情報提供の手段
 - インターネット
 - ハード・コピー



© JICA/Toshihiko Omoto

DB Manualの内容

□ 9. DB Informal opinions

- DBの非公式見解・助言・勧告
- これを求めるには当事者の合意が必要
- これによって紛争の防止効果が高められる
- 拘束力はないが、当事者が受諾するのは自由
- 満足いかないときも、これをベースに再交渉し、和解に至る可能性が高い



© JICA/Toshihiko Omoto

DB Manualの内容

□ 10. Referral and DB Decision

- 紛争の付託とDB裁定
- 紛争解決のフローチャート
- 付託の手続き規定はほとんどなく、非常にフレキシブルである
- DBがコストと時間のロスが最も少ないと考える手順を取る権限がある
- もちろん当事者にはReasonableで対等な発表の機会が与えられなければならない
- DB裁定の発行期日: 84日には気をつけること



© JICA/Toshihiko Omoto

DB Manualの内容

□ 11. Amicable Settlement

- Sub-Clause 20.5
- DB Decisionに不服申立の後、56日間は仲裁を始めることができない
- 56日間の意味
 - 組織内上部の承認取得時間
 - クーリング・オフの後、再交渉～和解
 - 当事者トップ・マネジメントの和解
 - Mini-trial
 - Mock arbitration



© JICA/Toshihiko Omoto

DB Manualの内容

□ 12. Arbitration

- Contract Data
 - Arbitration Institution and Rules of Arbitration
 - 仲裁手続きを助ける機関 (ICCなど)
 - 仲裁規則
 - UNCITRAL規則 (機関がない)
 - Place of Arbitration
 - 仲裁地 (Seat of arbitration) とも言う
 - 仲裁法が適用されるから重要
- Sub-Clause 20.6は問題のある条項
 - International / Domestic Arbitration?
 - Place of Arbitration
- 仲裁費用
 - ICC International Court of Arbitrationのフィー・スケール
 - 仲裁のリスク: 仲裁費用は膨大、負ければ相手側費用を支払わされる



© JICA/Toshihiko Omoto

DB Manualの内容

□ 13. Check List

- DB計画、設置、運営のそれぞれの段階における作業等のチェック・リスト



© JICA/Toshihiko Omoto

Dispute Board Manual

Than you for your attention

The End



© JICA/Toshihiko Omoto

写真集 (ベトナム)



開会挨拶 (JICA ベトナム事務所)



セミナーの様子



プレゼンテーション (JICA)



プレゼンテーション (調査団)



質疑応答の様子



ベトナム協会 (VECAS) での打合せ

写真集（スリランカ）



セミナーの様子



開会挨拶（JICA スリランカ事務所）



プレゼンテーション（JICA）



プレゼンテーション
（DRBF スリランカ代表者）



プレゼンテーション（調査団）



スリランカ協会（ACESL）との
意見交換

写真集 (フィリピン)



セミナーの様子



プレゼンテーション (アジア開発銀行)



プレゼンテーション
(DRBF フィリピン代表者)



プレゼンテーション (JICA)



質疑応答の様子



フィリピン協会 (CECOPHIL)
との意見交換

写真集（インドネシア）



公共事業省大臣による御挨拶



開会挨拶（JICA インドネシア事務所）



セミナーの様子



セミナーの様子（講師陣）



プレゼンテーション
(DRBF インドネシア代表者)



質疑応答の様子

写真集（東京セミナー）



開会挨拶（JICA）



セミナーの様子



プレゼンテーション（調査団）



プレゼンテーション（調査団）



質疑応答の様子



開会挨拶（JICA）